



2023.7.9

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会
akatsukanirinso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 41 年目
2023 年度は東京都都市公園制度制定 150 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

8 月はお休みします

9 月から活動再開 9/10 集合場所：大門ひろば

- ・秋の手入れ計画のための現場話し合い
- ・簡単な手入れ
- ・どんぐりまつりの練習

★「ニリンソウを守る会」は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

ロープ柵内の

生物多様性保全・保護エリアで 本格的な手入れ活動を開始しました



猛暑
の中で
19 名
参加



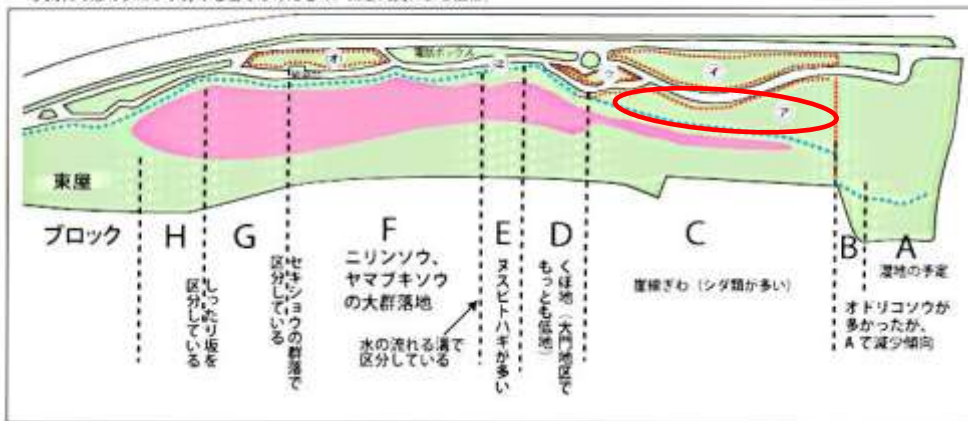
3 月から 4 月にかけてのニリンソウ月間が終了してから 5、6 月は「水問題」をテーマにした学習活動だったので、7/9 は久しぶりの現場の手入れ活動でした。

公園のご利用者には「不思議なスペース」と思われている方がたくさんいらっしゃると思いま

すが、ここは 2018 年度から取り組まれている生物多様性保全事業で、林に接する草原（野草が広がる場所）の創出を目指して設置された場所です。これまでは人が自由に歩くことができていたのですが、2019 年にロープ柵が張られて保護エリアになりました。以降、2 年

都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11.24 改定

・2020.6 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014 年発行「残そう！緑の自然」に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの。榮志代氏による監修。



間は状態を見まもるための観察を続けて、昨 2022 年から草刈りの手入れが始まりました。「生物多様性の保全」を目的する以上、公園内の他の場所で行われている野草の全除伐ではなくて「野草を残す草刈り」というこれまで行ってこなかった管理法をとるので、しばらくは試行錯誤の繰り返しになります。「ニリンソウを守る会」も本格的な手入れに加わり、今回は前ページマップの㊦のエリアで実生木の抜き取り作業を行いました。

このエリア、ちょっと見ただけではただ野草が勢いよく伸びているだけで「一面の緑」にしか見えませんが、よく観察すると林に生えている樹木の種子から芽を出した実生木がたくさんあります。これらを放置しておくとな数年もしないうちにここは林になってしまい、地表の草が生えにくくなってしまいますので、今のうちに抜き取ろうというのが、この日の作業の狙いでした。



↑トチノキの実生

↑ 7/9 の主なターゲット=イロハモミジの実生 大小たくさんあります ↑



↑エノキやヒノキ、ヤマグワなど



左下の写真の赤枠にはイロハモミジの実生木が生えています。それを抜き取ったのが右下の写真ですが、写真を見ても分かりにくい、ましてやロープ柵の外側から見る限り草地の様相はほとんど変わっていません。



でも、この作業がものすごく重要なのです。

「草原をつくる草刈り」のためのチャレンジ

東京都公園協会、赤塚公園サービスセンターとニリンソウを守る会は、草高を調整しての草刈り、部分的に草を刈らない場所をつくるなど、「草原をつくる草刈り」のためにどうすればよいか、試行錯誤を繰り返しながら、武蔵野台地の大事な自然を維持していこうと話合っています。

公園ご利用者のみなさまのご理解・ご協力お願いいたします。もちろん、ご参加も大歓迎です！